

プログラム

第 1 部

H.ヴォタヴァ：祝典ファンファーレ
H.Wottawa : Festfanfare
K.シュティエーグラール：聖フーベルト・ミサ
K.Stiegler : St.Hubertus-Messe
F.コペレント：オイゲン公の詩
F.Kopelent : Ballade vom Prinz Eugen
F.シューベルト：「グレート」交響曲によるファンファーレ
F.Schubert : Fanfare aus der Symphonie Nr.9
R.フーバー：牧歌とウィーンの森の狩りの愉しみ
R.Huber : Idylle und Jaegerlust im Wienerwald

第 2 部

L.v.ベートーヴェン/E.ピツカ：「エグモント」序曲
L.v.Beethoven / E.Pizka : "Egmont" Overture
H.シャントル：ワルツ風ロンド
H.Schantl : Walzer Rondo
A.ヴンデラー：高原に咲くすみれのワルツ
A.Wunderer : Gemsveilchen (Walzer)
A.ディーヴィッツ：ポロネーズ
A.Diewitz : Polonaise
L.ライター：マーチとカンツォネッタ
L.Rajtar : Marsch und Canzonetta
K.シュティエーグラール：ローエン格林・ファンタジー
K.Stiegler : Lohengrin-Fantasie

ごあいさつ

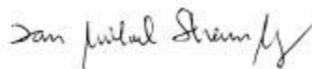
本日は、私たち東京ウィンナホルン協会の第 1 回演奏会にご来場いただき、誠にありがとうございます。
「ウィーンの音楽をこよなく愛し、ウィーンフィルに代表される伝統に培われた演奏法を継承し、その発展に寄与すること」を目的とした当団体は、本日ここに日頃の成果を披露させていただくこととなりました。
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団首席ホルン奏者であり、ウィーン・ヴァルトホルン協会会長を務められ、我々に「ウィーン魂」を授けて下さったラルス・ストランスキー先生と、遅々として上達しない私たちを、諦めずに暖かく指導して下さった守山光三先生に恩返しができるとすれば、一人でも多くの方々に「ウィーンの音楽」の素晴らしさをおわかりいただくことに他ならず、メンバー一同とても張り切っております。
そして何より、本日ご来場の皆さんにも「ウィーン音楽の伝道師」になっていただければ、それ以上の喜びはありません。是非最後までお楽しみください。

東京ウィンナホルン協会 会長 田中秀穂

Als Präsident des Wiener Waldhorn Vereines und langjähriger Lehrer und Freund des Tokio Wiener Horn Vereines freut es mich sehr, daß dieses heutige Konzert mit Werken stattfindet, die ich teilweise persönlich einstudiert habe. Ich wünsche dem Tokio Wiener Horn Verein und allen Zuhörern ein schönes und erfolgreiches Konzert und eine ebenso blühende Zukunft.

Lars Michael Stransky
Präsident des Wiener Waldhorn Verein
Solohornist der Wiener Philharmoniker

ウィーン・ヴァルトホルン協会会長として、また、東京ウィンナホルン協会の長年の指導者、友人として、私が自ら指導した作品も含む本日のこのコンサートの開催を大変嬉しく思っております。
東京ウィンナホルン協会と、聴衆の皆様にも、このコンサートが素晴らしいものとなり、成功をおさめること、そして、豊かに花開く未来をお祈りいたします。



ラルス・ミハエル・ストランスキー
ウィーン・ヴァルトホルン協会 会長
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団首席ホルン奏者

東京ウィンナホルン協会演奏会によせて

草津での彼等との初めての出会いから早くも 6 年が経った。正直言って、彼等との最初の出会いは私にとってただの驚きであった。何も無理をして吹きにくいウィンナホルンとわざわざ格闘することもあるまいに。
次の年も彼等は屈せず再び草津にやって来た。レッスン後半で早くも投げやりなストランスキーをなだめたりおだてたり、とにかく時間は過ぎた。
そして今年の夏、草津での再会は以前とは違う驚きを用意していた。整然と整理されたハーモニー、流れ行く旋律。彼等はもののみごとに変身していた。
この、奇妙なオジサン集団の変身は、一重にストランスキーという卓抜した音楽家の手によるものであり、それに応えたオジサン達の血の滲むが如くの努力の結果であるのだ。彼等はあきらめなかった。そしてストランスキーもあきらめなかった。
この種のアマチュア集団の中で、彼等はとび抜けて幸運なグループである。それは、この 6 年の間に彼らが真に高水準で音楽的内容の濃い、ストランスキーのレッスンを受け続けて来られたことである。
今年、彼等はただ単に特別な楽器を愛好する団体から脱皮した。特別な楽器、ウィンナホルンを用いて音楽にアプローチするまでに育っていた。
彼らのさらなる飛躍と発展を、本日の演奏会をきっかけに期待したい。

守山光三

東京芸術大学教授



ストランスキー師匠と守山先生
(2002年8月草津にて)

曲目紹介

祝典ファンファーレ *Festfanfare* <使用楽譜 : WWV (Wiener Waldhorn Verein)>
H.ヴォタヴァ (Heinrich Wottawa:1867-1912) は、ブルックナーの弟子だった人物。ホルンの響きを最大限に活かした、勇壮かつ美しいファンファーレである。
<演奏パートおよび席順> 1 佐藤/中根 s/吉田 2 藤本/松井 3 北脇/大湾 4 大木/加藤/中根 f 5 田中/秋元/佐々木

聖フーベルト・ミサ *St.Hubertus-Messe* <Hans Pizka Edition>
K.シュティエーグラール (Karl Stiegler:1876-1932) の名前は、ウィンナホルンの歴史を語る時に外すことができない。ウィーンフィル首席ホルン奏者として、ウィーンアカデミー (音楽院) の教師として、そして、作曲家・編曲者として、数多くの功績を残した人物であることを考えれば、「ウィンナホルンの父」のような呼称を与えたとしても、決して大袈裟なものとは言えないだろう。
作曲家としての彼の代表作「聖フーベルト・ミサ」は、狩りの守護神とされる聖フーベルト (フーベルト司祭 : 8 世紀の人物) を讃える音楽である。狩りを愛し、狩人に「みだりに獲物を射ることなく、人類のために自然界の調和を求めよう努めよ」と諭した聖フーベルトに対する、暖かい親愛の情に満ちた「ミサ」音楽となっている。
キリエ~グロリア~クレド~オッフエルトリウム (奉献讃) ~ 聖変化ののち~ アニウス・デイ (神の子羊) ~ 終曲 (聖フーベルト・ファンファーレ) の 8 曲により構成される。
1 佐藤/中根 s/吉田 2 北脇/松井 3 中根 f/加藤/藤本 4 大木/大湾 5 田中/秋元/佐々木



シュティエーグラール

オイゲン公の詩 *Ballade vom Prinz Eugen* <WWV>
オイゲン公 (Prinz Eugen:1663-1736) は、トルコのウィーン進軍時に陥落寸前となったウィーンを救った英雄。そのオイゲン公の活躍を称えたその名も『オイゲン公 (Prinz Eugen)』という軍歌をモチーフに、トロンボーン奏者にして WWV のバスホルン奏者も務めた F.コペレント (Franz Kopelent:1897-1961) がホルン六重奏にまとめたのがこの曲。途中、独奏ホルンから始まる「オイゲン公」の歌が、次第に楽器を増やして拡大して行き、最後は高らかなファンファーレとなって華々しく曲を閉じる。なお、この「オイゲン公」の歌は、歴史上の人物を集めたウィーンの仕掛け時計「アンカー時計」でも奏でられるので、ウィーンで耳にされた方もいらっしゃるかも。
1 吉田/佐藤/中根 s 2 北脇/松井 3 藤本/大湾 4 中根 f/大木 5 加藤/田中 6 秋元/佐々木

「グレート」交響曲によるファンファーレ *Fanfare aus der Symphonie Nr.9* <WWV>
シューベルト (Franz Schubert:1797-1828) の「グレート」交響曲 (現在では「第 8 番」とされることが一般的だが) の第 1 楽章のモチーフを用いてホルン六重奏にアレンジされた曲。よって、当然だが (?)、シューベルト自身の手によるものではない。(編曲者不詳) WWV の出版譜には、こうした古今の「名曲」のアレンジ物も多く、主要なレパートリーとして取り上げられてきた歴史がある。曲は「あつという間に終わるグレート第 1 楽章」といった趣き。
1 吉田/佐藤/中根 s 2 北脇/松井 3 藤本/大湾 4 中根 f/大木 5 加藤/田中 6 秋元/佐々木

牧歌とウィーンの森の狩りの愉しみ *Idylle und Jaegerlust im Wienerwald* <WWV>
WWV の指揮者を務めた R.フーバー (Rudolf Huber:1879-1960) によるソロパート 4、合奏パート 4 という珍しい形式の曲。ゆったりとして美しい「牧歌」の前半と、勇ましい狩りの様子を模した後半の 2 部構成となっている。中でも、幾重にも折り重なったハーモニーが美しい「牧歌」は、本日の演奏曲目中でも屈指の名曲と言える。
<ソロパート> 4 秋元 3 北脇 2 松井 1 藤本/佐藤 <合奏パート> 1 中根 s/吉田 2 加藤/中根 f 3 大湾/大木 4 田中/佐々木
下線の奏者はアシスタント

「エグモント」序曲 *"Egmont" Overture* <Hans Pizka Edition>
言わずと知れたベートーヴェンの名曲を、オーストリアのホルン奏者エーリヒ・ピツカ (Erich Pizka:1914-1996) がホルン八重奏用に編曲したもの。なお、エーリヒの子息ハンス・ピツカ (Hans Pizka) は、現バイエルン国立歌劇場管弦楽団首席ホルン奏者で、ウィンナホルンの演奏家としても知られる。また、楽譜の出版事業にも熱心で、本日使用の楽譜のいくつかも「ピツカ出版」(Hans Pizka Edition) によるものである。
曲は四重奏での演奏も可能なように、1-5 番、2-6 番、3-7 番、4-8 番がセットとなって書かれている。よって、本日の演奏も、そのセット毎に並んでのものとなる。
1 藤本/中根 s 5 北脇 2 佐藤 6 大湾 3 松井 7 中根 f 4 秋元 8 田中/佐々木

ワルツ風ロンド *Walzer Rondo* <WWV>
作曲家 H.シャントル (Heinrich Schantl) については、残念ながら詳細の情報がなく、どのような人物なのかかわからない (ウィーン・ヴァルトホルン協会創設者の Josef Schantl とは別人) 。軽快な序奏部と優雅なワルツから成る、洒落た小品である。
1 加藤/吉田 2 藤本 3 北脇 4 大木/秋元 関西圏 (西日本) 在住メンバーによる演奏。

高原に咲くすみれのワルツ *Gemsveilchen (Walzer)* <WWV>
ウィーン宮廷劇場舞台オーケストラの指揮者を務めた A.ヴンデラー (Anton Wunderer:1850-1906) は、同時に数多くのホルンアンサンブル楽曲を残した作曲家でもあった。シュトラウス一族にも負けないメロディーメーカーぶりを発揮した、爽やかにして可憐なワルツ。
1 佐藤/中根 s 2 松井/中根 f 3 大湾/田中 4 佐々木 関東圏在住メンバーによる演奏。

ポロネーズ *Polonaise* <WWV>
残念ながら作曲家 A.ディーヴィッツ (Anton Diewitz) についての詳細情報はない。ポロネーズはポーランドに伝わる舞踊リズム。力強く、男性的な舞曲音楽となっている。
1 佐藤/中根 s/吉田 2 藤本/松井/加藤 3 中根 f/北脇/大湾/大木 4 田中/秋元/佐々木

マーチとカンツォネッタ *Marsch und Canzonetta* <WWV>
L.ライター (Ludwig Rajtar :1906-) はスロヴァキア・フィルの指揮者を務めた人物。文字通りの「歌」に溢れたカンツォネッタと軽快なマーチによる 2 曲構成。なお、本日はカンツォネッタ マーチの順で演奏する。
1 佐藤/中根 s/吉田 2 藤本/松井/加藤 3 中根 f/北脇 4 大湾/大木 5 田中/秋元/佐々木

ローエン格林・ファンタジー *Lohengrin-Fantasie* <Hans Pizka Edition>
ワーグナーのオペラ「ローエン格林」から主要な部分を繋ぎ合わせて、ホルン八重奏の「幻想曲」として再構成した楽曲。シュティエーグラールのアレンジャーとしての並々ならぬ能力を感じることでできる佳曲である。第 1 幕への前奏曲に始まり、結婚行進曲、エルザの大聖堂への行進などを経た後に、第 1 幕の終曲によって壮麗に曲を閉じる。
1 藤本/中根 s 2 松井 3 吉田 4 大木 5 佐藤 6 大湾 7 秋元 8 田中/佐々木